

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

.サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。

各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに を付け、適宜その内容を記入すること。

「取組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム・コミュニティーハウス北条

(ユニット名) 2階

記入者(管理者)
氏名 和田 博文

評価完了日 平成 20年 9月 20日

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	<p>(自己評価)</p> <p>地域性や利用者の特性又、利用者。家族、スタッフの思いを盛り込んだ理念を作成し、その理念に基づき支援している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>「地域と共に利用者が当たり前暮らしさせる社会作り」に取り組み、「地域に貢献できる事業所」を目指しておられる。</p>		利用者・家族・地域の方の本当の声に耳を傾け、今の理念をもっとより良くしていく事で、利用者・スタッフが、なお一層地域に貢献し活躍していけるように努める。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>事務所やリビング、玄関等目に付きやすいところに理念を明示すると共に、毎月の職員会やカンファレンス時に理念について話し合うことでスタッフの意識統一をはかっている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>理念を玄関や居間等に掲示し、すべての職員で共有しながら、ケアを実践できるようにされている。</p>		なお一層、理念の周知徹底、実行していくと共に常に振り返り、見直すことで、理念に基づいたケアを実践できるようにする。
3		家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>リビングや玄関等の目に付きやすいところに理念を明示しており、家族会や運営推進会議で理念について説明し理解を得ている。又、入居時や家族の面会時にも理念についての説明を行なっている。</p>		ホームの広報誌やパンフレットにも理念を掲載し、より多くの方にホームの理念を理解してもらえるように努める。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 運営推進会議や納涼祭等、地域の方に参加していただく事で交流を図っている。又、地域の行事や公民館清掃、ごみ当番、一斉清掃、愛りパー清掃活動にも積極的に参加することで、普段の生活の中でも地域の方と挨拶や立ち話等が出来る。地域の子供が遊びにくることが多く、利用者も喜んでいる。		地域の特性や近隣の方の人間性を、よく理解することで地域やホームの行事以外でも関わりを持っていけるように努める。普段からの付き合いを大切にし、お互いが支え支えられる存在でありたい。
5	3	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 運営推進会議を通じて、地域の自治会に加入した。地域の行事(お祭りや運動会)に参加したり、公民館清掃・ごみ当番・一斉清掃、愛りパー清掃活動など、地域の住民として当たり前に参加できるようになった。地域が推進している、資源ごみ集め活動にも積極的に参加し、そこで得た収入を地域の秋祭り費用にあてている。		運営推進会議で老人会や地域サロンの加入の道筋が出来ていたが、地域の方の声が色々有り、今は止まっている状態である。地域の方の声では「地域サロンの加入ではなく交流が望ましい」との事なので、今後はその様な活動体との交流をはかっていきたいと思う。
			(外部評価) 事業所を秋祭りのだんじりの休憩所に提供されたり、地域の清掃活動等にも積極的に協力されている。又、事業所の「納涼祭」には、多くの地域の方達が来られ、小中学生の保護者の方も手伝いに来てくださった。区長さんの紹介でボランティアの方が訪問してくれるようになった。		事業所では、「積極的な自治会活動への参加」を今年度の目標にされており、今後、老人会や地域サロンとの交流をすすめていきたいと話しておられた。
6		事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議で地域の方々と話し合いを持っており、その中で地域の高齢者の思いや求めていること、又事業所が出来る事について考え取り組んでいけるように地域の方と話し合っている。介護相談等も受け付けているが、今のところ相談を受けたケースはない。		介護相談や介護教室等、もっと地域の方にアピールし、気軽に参加できるように地域の公民館等を利用していきたい。それに伴い、地域の方に介護について興味を持ってもらい、地域に住まわれている高齢者に目を向けてもらえる意識作りの一つとして役立っていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 自己評価や外部評価を行なうことで、普段我々が、見落としや、改善すべきところ、又、新たな気づき等スタッフ間で共有し、早期に改善できるところは改善し、グループホームの色を発揮しながらスタッフで話し合うことで、評価を一つのスタッフ育成や新たな気づきの道具の一つとして活用している。		スタッフは評価の意義をよく理解しており、評価項目だけをこなしていればいいと言う意識ではなく、合わせて、グループホームや利用者の特性、地域性など含めて、それぞれの色を十分に発揮できるように考慮しながら、具体的な改善などに努めている。
			(外部評価) 自己評価は、ユニット毎に取り組み、管理者がまとめられた。管理者は、「日々の支援を確認しあい、職員一人ひとりの考えやケアに対する姿勢がよく分かった。」と話しておられた。又、職員は、「利用者一人ひとりの、その人らしい暮らしを大切にすることの重要性」を再認識された。前回の評価結果を受けて、地域との関係性を深めることに特に力を入れて取り組まれた。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 出来る限りスタッフは会議に参加し、地域の方、家族等の生の意見を聞き、実際に活かせる様に努めている。参加できなかった職員には職員会や議事録を明示する事で、意識の共有をはかっているが、まだまだ運営推進会議の重要性が理解できていない感がありサービスにつながっていない。		地域の方の生の声を直接聞ける良い機会として、より多くのスタッフが運営推進会議に参加し、それをケアに活かせる様に努めていく。 ホームに直接訪れていただくことで、利用者や職員の顔を覚えていただき、グループホームとはどんな所か?という所を理解していただけてきた。
			(外部評価) 会議には、利用者も出席して行われている。事業所から地域行事への参加状況を報告されたり、区長の方より行事の案内もいただいている。管理者は、会議を通じて地域との関係も深まってきたと話しておられた。		
9	6	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議以外での関わりは少ないように感じる。地域包括支援センターが毎月開催している連絡調整会議に市の担当も参加しているため、それをきっかけに何らかのアプローチが出来ればと考えている。		待ちの姿勢ではなく、グループホームの方から、積極的にアクションをかけ市町村との連携等はかかっていきたい。
			(外部評価) 運営推進会議時、市の担当者の方から研修受講をすすめていただいたり、同業者との交流をすすめていただいている。		
10		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護や成年後見制度についての研修等には出来るだけ参加しているが、全ての職員が周知しているわけではない。現在、権利擁護事業を利用している方がおり、その関係者とも定期的に連絡をとり連携できている。		全ての職員が各制度に対する研修を受け、周知できると共に、今後対象となる利用者がスムーズに制度を受けられるように努める。
			(自己評価) スタッフ同士がケアのあり方を確認して行なうことや、申し送り時等に利用者の状況を報告し、特に傷やアザなどないか記録に記入すると共に、職員会やカンファレンスなどで虐待についての勉強会や話し合いを行なうことで、虐待に対するスタッフの意識を高め、虐待が起こらないようにスタッフ皆が意識してケアに望んでいる。		虐待を未然に防止する為に、スタッフが抱えているストレスや精神状態をいち早く察知し解決すると共に、外泊時等にも、家族に普段の様子、ケアの方法・認知症についての説明、又とにかく無理をしないことを伝えることで、虐待にいたらないように気をつけている。
11		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) スタッフ同士がケアのあり方を確認して行なうことや、申し送り時等に利用者の状況を報告し、特に傷やアザなどないか記録に記入すると共に、職員会やカンファレンスなどで虐待についての勉強会や話し合いを行なうことで、虐待に対するスタッフの意識を高め、虐待が起こらないようにスタッフ皆が意識してケアに望んでいる。		虐待を未然に防止する為に、スタッフが抱えているストレスや精神状態をいち早く察知し解決すると共に、外泊時等にも、家族に普段の様子、ケアの方法・認知症についての説明、又とにかく無理をしないことを伝えることで、虐待にいたらないように気をつけている。
			(自己評価) スタッフ同士がケアのあり方を確認して行なうことや、申し送り時等に利用者の状況を報告し、特に傷やアザなどないか記録に記入すると共に、職員会やカンファレンスなどで虐待についての勉強会や話し合いを行なうことで、虐待に対するスタッフの意識を高め、虐待が起こらないようにスタッフ皆が意識してケアに望んでいる。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		<p>契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>(自己評価) 利用者・家族には重要事項説明書や入居契約書に沿って分かりやすく説明すると共に、グループホームの特性や生活の様子全般を説明し理解・納得していただいた上で契約を行なっている。また、疑問や不安、問題等が発生したときも早期に話し合ったり、改善内容を利用者及び家族に説明することで理解を得ている。</p>		<p>特に入居希望時などは、事前に見学や体験入居等していただき、そのときに発生した疑問や、不安等を聞くことで、改善できるように努めている。</p>
13		<p>運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>(自己評価) スタッフは利用者と密にコミュニケーションをとり、何でも話し合える関係づくりに取り組んでおり、意見は家族や管理者・計画作成担当者に伝え話し合いを持つことで、その訴えに対し迅速に対応できるように努めている。又、利用者がその様な訴えを言いやすいように一対一の時の時間を大切にスタッフは対応している。</p>		<p>利用者がスタッフにも話せない、事情がある話を管理者が聞いたときには、その利用者のプライバシーを第一に考え、その訴えに対するアプローチの方法を本人や家族・関係する方々のみで話し合い解決できるように努めている。</p>
14	7	<p>家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>(自己評価) 利用者には各担当スタッフがついており、利用者の状態や病院受診の結果、相談・預かり金の不足等は各個別の担当が定期的に行なっている。金銭管理や職員の移動等に関することは、事務所のほうから毎月書面や電話等で行い、金銭管理については事務所とホームで二重にチェックし間違いのないように管理している。</p> <p>(外部評価) ご家族の来訪時や電話で、利用者の健康状態や日々の暮らしぶりを報告されている。医療費等は、領収書の原本をお送りするようにされている。又、行事時やお誕生会の写真等を載せた季刊誌「風早のお便り」をご家族に送っておられる。</p>		<p>各担当で解決できない問題が発生した時や事業所での解決が必要なときには、管理者や運営者が家族に報告し理解を得ている。</p>
15	8	<p>運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>(自己評価) 年に一度家族会を開催し、意見交換を行なっている。又、面会時や自宅訪問時・電話連絡時に家族に要望・不満等、伺うようにしている。家族からの要望や不満があった時には管理者に報告し、その訴えに対し迅速に対応できるように話し合いをもち、ストレスを与えないように何らかの対応策を考えそれを家族に伝えるようにしている。</p> <p>(外部評価) 家族会では、ご家族だけで話し合う機会も作っておられる。ご家族から「居室の整理整頓に努めてほしい」という意見があり、対応された。家族会主催で、利用者、ご家族、職員合同の泊旅行や日帰り旅行を実施されている。</p>		<p>契約書に苦情受付窓口、苦情ポスト、受付担当者を明記しており契約時に口頭で伝えている。また、家族は「見てもらっているから」という意識が強い為、遠慮なく言ってもらえる関係づくりに努めたり、直接スタッフに苦情や要望を言いにくい時には、家族会会長も受付窓口になっていただいております。匿名で家族からの苦情・要望等を聞けるような体制づくりをしている。</p> <p>ご家族の中にはご高齢の方も多くなり、家族会の出席人数が減少傾向のようであるが、事業所では、働きかけを工夫して意見を引き出していきたいと考えておられた。</p>

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月職員会やカンファレンスを開催し、職員が積極的に意見を出し合えるように会議を工夫をしている。また、個別でも、いつでも意見交換や提案を話すことが出来ており、必要であれば職員会や申し送り簿を通じて職員皆が周知できるように努めている。		職員同士が本音で話し合えるよう、会議や普段の業務の中でも、話しやすい雰囲気や工夫、きっかけ作りをしていきたい。
17		柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 全体的なスタッフの人員にもよるが、利用者・家族からの訴えや要望がある時は、人員の確保や超過勤務も含め、出来る限り柔軟に対応できるようにしている。又、そのようなことにスタッフもよく理解しており、勤務の変更があるときにも話し合いで解決できている。		ここ最近、退職者が数名有り、次の人員確保等、早急に努めているが、中々入職者が来ないことに苦慮している。今後は会社代表と話し合い、賃金や勤務体系等の見直しも含め話し合っていきたい。
18	9	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 出来る限り、利用者へ負担がかからないように努力はしている。スタッフの退職や異動等、最小限に抑えているが、入職者がいない為、現状は厳しくスタッフへの負担は多く掛かっている、しかし、そのような状況の中でもスタッフとよく話し合い、利用者へ与えるダメージの軽減に努めている。		スタッフの離職、異動等による利用者への負担を軽減する為にも、スタッフが離職理由にあげる(賃金や人間関係)等の見直しをしていく必要がある。また、介護の仕事をする人、次の介護の担い手等、発掘・育成していくことが大切である。
			(外部評価) 新人職員は、利用者に寄り添い、お話に耳を傾け、コミュニケーションに努めることを大切にされている。事業所では、スポーツジムの無料使用や職員旅行等、職員の働きやすい環境作りに取り組みでおられる。		又、管理者は、職員同士が認め合い、互いに感謝や信頼の気持ちを言葉に表せるような関係作りを目指しておられる。

5.人材の育成と支援

19	10	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職場内での研修を行ったり、外部の研修に参加することで、スタッフの意識・技術の向上を図っている。又、職員会やカンファレンス等でも日々の業務の中で出た話題や様々な問題点を見つめなおし、話し合う機会を持つことで、常にスタッフが考えて業務に当たれるようにトレーニングをしている。		各役職やスタッフの知識・技術にあった育成プログラムを作成し、計画的に人材育成に努めていく。
			(外部評価) 職員会等の機会を捉え、管理者は、その時々の問題点を提示し、職員と共に考え、勉強されている。又、日々のケアの中で職員にアドバイスをされている。		管理者は、今後、研修の年間計画を作成し、さらに職員のスキルアップを図りたい、と考えておられた。又、職員は、利用者とのコミュニケーションスキルを高めて、ご本人の思いを探っていきたいと話しておられた。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 地域包括支援センターを中心とした地域の同業者との連絡調整会議が毎月開催されているが、勤務や人員の関係上あまり参加できていない。研修等で知り合った同業者の方とは定期的に連絡をとり、新しい情報や悩み等話し合っている。今後は相互訪問や研修の受け入れ等を検討している。		連絡調整会議等にもっと積極的に参加し、地域の同業者の方とのネットワーク作りを行い、勉強会や相互訪問等お互いにメリットのある関係作りをしていけるように努める。
			(外部評価) 地域の同業者との連絡調整会議に参加されている。法人内の事業所と交流されている。		
21		職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 新年会や忘年会、定期的な食事会等を行い、スタッフが本音で話し合える場を作っている。又、日々の業務の中でも随時話し合いを持つことで、スタッフの思いや希望・悩み等を把握・解決・尊重できるように努めている。		定期的に食事会や飲み会等を行い、職員が本音で話せる場を作っている。ストレス解消のためにスポーツ施設と契約しスタッフが無料で運動できる機会を作った。去年は職員の念願だった職員旅行を実施した。
22		向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 職員会や日々の業務の中でも、スタッフからの提案や意見が積極的にあり、それをしっかりと受け止めると共に、運営者・管理者・スタッフ皆が協力して行なうことで、運営者はスタッフの努力や実績を把握できている。スタッフの行動を認め評価する事で、スタッフは向上心を持って働けている。		スタッフが考えながら仕事ができるように問題提起をしたり、ねぎらい・感謝の気持ち・信頼している気持ちを言葉として伝えることでスタッフが常にやる気を持って業務にあたる様に努めている。職員が行っていることを、きちんと把握し、それに対する評価をしてあげられるように努めている。
<p>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p> <p>1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>					
23		初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 相談があれば、その都度、事前訪問を行い、本人と話し合いの場を設け、本人の希望や思いを出来るだけ多く汲み取れるように努めている。意思疎通が難しい方には、家族や関わっている関係者に良く話を聞くことで、できるだけ本人の思いに添えるケアが出来るように努めている。		本人の希望や思い・不安等、良く聞き、その訴えに柔軟に対応できるように、施設側の受け皿を多く持つておくことが大切である。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
24		初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 利用前には必ず面会し、本人の状況や本人・家族の希望や思い等、話し合い、その訴えに柔軟に対応できるように、関係する事業所や関わる人も交え考え支援していけるように努めている。		本人や家族の希望や思い・不安等、良く聞き、その訴えに柔軟に対応できるように、施設側の受け皿を多く持つておくことが大切である。
25		初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人や家族、関係してる方やケアマネ等から情報を集め、それをもとに管理者や計画作成担当者がアセスメントを行い、支援内容や協力を必要とする機関等判断し、その機関と連携を取り合い、支援していけるように努めている。		幅広く、他のサービスも含めた支援をしていける為に、日頃からそのような機関と連携し関わりを多く持つておくように努める。
26	12	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にながら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 事前訪問や事前の見学、体験入居、入居時の家族との宿泊を通して利用者が徐々にホームでの生活に慣れていくように努めている。入居して間もない方は、そっと一人の時間を過ごしていただいたり、関わりを密にとる事で少しずつホームに慣れるように対応している。		家族や本人の周りを取り巻く方々との関わりも密に取り、利用者第一に考え、利用者の新たな生活のスタートが今までと変わらないものであるように努める。自宅等で、使われていたなじみの物等、自由に持ち込んで頂き、環境面でも安心してもらえるように努めている。
			(外部評価) ご本人が事業所での生活にゆっくり馴染めるよう、細やかな対応に努めておられる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 日常生活の中で、挨拶から始まり、掃除・洗濯、食事・日常会話等の中から生活の知恵を教えて頂く事もあり、お互いに尊重しあう関係が保たれている。困っているときには助け、助けられ、嬉しい時には一緒に喜びをわかちあえる様に心がけている。		本人からの訴えに耳を傾け、小さな事でも一緒に悩み、解決したときには一緒に喜び合える、この積み重ねが今後も大切であると思う。
			(外部評価) 職員は、利用者と職員は互いに「支え支えられる存在」である、という思いを大切に日々支援しておられる。利用者に地元のしきたりや祭り、方言等について教えていただくこともある。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 日々の生活の中で、不安なことがないように、連絡を密に取り合いながらサポートし一緒に目線で本人を支えられる存在である様に努めている。		今まで本人を支えていた家族の悩みや思いを、しっかりと受け止め、家族自身が負い目を感じないように、関わりを持っている。外出や行事等に参加していただき、利用者の普段とは違う表情を見ていただくことで、家族にも介護の楽しさを感じていただけるように支援している。
29		本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 個別担当が中心となり、本人と家族の間に入ったり、クッション役になったりすると共に、面会時には、ゆっくりお話できる話題作りや機会、雰囲気作りをし、お互いが疎遠にならないように支援している。		本人が自由に電話をしたり手紙を書いたり出来るように家族には了解を得ており、時には買い物ついでに家に帰ったりすることもある。自由に行き来できることで家族も本人も喜んでいる。 今後も両者の架け橋になれるように支援していく。
30		馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 個々によるが、知人や近所の方の面会が時にはあり、楽しく会話されている。以前、行きつけの美容院に今も通われたり、馴染みのスーパーに買い物に行かれたりして、本人が今まで住まわれていた地域とのつながりを大切にしている。		地元の方は病院受診時やスーパーでの買い物・散歩のときに知人や馴染みの人とよく出会う。お互いが心配しあったり自慢しあったり、その時の利用者は特に生き生きしている。地元ではない利用者の支援があまりできていない感がある。
31		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) スタッフは利用者同士の関係をよく把握している。中には仲の悪い利用者さんもいるが、スタッフはクッション役になったり、話し相手になったりして利用者が孤立しないように気をつけている。		時には利用者同士の喧嘩もあり、スタッフは仲裁に入ったり、様子を見てみたりすることで、そのうち解決していたり、あまり他の利用者に関わりを持たない利用者でも、何かを一緒にする事で仲良く会話されている場面もあるので、その様な場面を増やせるようスタッフは努めている。
32		関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 退所された場合でも、他のサービスを利用する際の相談窓口となれる様にお伝えしている。また、近所でお会いしたときには積極的に会話するように努めている。		退所され在宅に戻られた家族さんより、物品(福祉用具等)がどこで購入できるか、介護施設やケアマネ等、問い合わせがあった際、情報をお伝えしている。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
33	14	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価)		
			普段の関わりの中で、本人の希望をしていることを探るアプローチをしている。また、意思疎通の難しい方については、家族や身近な方から以前の暮らし方、好きな事、嫌いな事等、本人の生活史を伺い、少しでも本人の思いに近づけられるように努めている。		家族や身近な方から積極的に本人の生活史、嗜好、友人等聞いているが、それが完全にケアに活かされている事が少ない。その原因として聞いて知りえた情報をスタッフの会話の中でしか共有できていない為だと思われる。今後は、その様な知りえた情報を「本人の生活史ノート」の様な物を作り、継続的にケアに活かされるように努めていきたい。
			(外部評価)		
			職員は、利用者とのコミュニケーションを大切にされており、日々の会話や表情の中から、利用者一人ひとりの思いや希望を汲み取れるよう努められている。		管理者は、今後、センター方式のアセスメント表の利用も考えておられた。さらなるアセスメントや記録の充実をすすめ、日々のケアにつなげていかれることが期待される。
34		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価)		
			入居時や事前訪問時に家族や本人、関係した他事業所のスタッフから情報を得ている。入居後も日々の生活の中や関わりの中から本人の歩んできた人生を聞きだし、それをケアに活かしている。		本人や家族から得た情報を介護記録だけではなく、個別ノートを作り残しておく。ケアプラン等もう少し生活歴を活かせるようなプランニング作りをしていきたい。
35		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価)		
			日々の利用者との関わりや毎日のバイタルチェック、表情の観察等から利用者の状態を把握している。それをきちんと申し送っていくことで、スタッフ皆が共有できている。利用者個々のお気に入りの場所を把握し利用者に合わせてケアを行っている。		今後も日々の状態の変化等、敏感に察知し、状態の変化に合わせた関わりが出来るように努める。
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価)		
			家族には面会時や電話連絡時等に希望や要望を聞くようにしている、それにあわせ日々の生活から出た本人の言葉や希望等をもとに個別担当者が介護計画を作成し管理者や計画作成担当者が確認しカンファレンスにて話し合いスタッフ皆が共有し実行している。		カンファレンスは毎月職員会後に行なっているが、時間的に夜(19~20時頃)に行なっている為、利用者や家族が参加できないことが多い。利用者・家族も参加できる様、カンファレンスの開催時間の調整等必要である。スタッフ主導のケアプランではなく本人・家族の希望や思いを叶えられるプラン作りに取り組んでいきたい。
			(外部評価)		
			ご本人の希望や思いを主体に、介護計画を作成されている。		さらに、利用者個々の生活歴等も踏まえ、ご本人らしい暮らしが継続できるよう、介護計画の作成についても工夫を重ねていかれてほしい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
37	16	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 毎月カンファレンスを行い、3月に1度見直しを行っているが、見直し前であっても、本人や家族等から新たな希望や思いがでたり、状態変化に伴う見直し、日々の生活の中で新たな発見があったときには、個別の担当者や計画作成担当者を中心に本人・家族と協議の上、新たにケアプランの見直し・作成を行なうようにしている。		日々の生活と連動したケアプランを作成していく必要がある。見直し時には、利用者の変化や家族の思いを聞くようにし継続性を持って行っていきたい。また、スタッフ皆で話し合いプランについては認識しあえているように感じたが、より把握できるように、追加事項・変更事項等きちんと書面に残していきたいと思う。
			(外部評価) 3ヶ月ごとの見直しと、状態変化に応じた随時の見直しを行ってられる。		
38		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 介護記録は利用者個々の、行動記録・排泄チェック・食事量・気づきや・利用者の言葉等を記録として残している。また、朝夕に申し送りを行い、スタッフ皆が共有でき継続性のあるケアを実施できるように努めている。		スタッフは記録の重要性を認知しており、日々の状態変化や気づき、利用者の言動等、変化があった時などは申し送りの徹底をはかり周知に努めている。しかし、ケアプランに関しては意識して対応し、記録もなっているが、介護計画の評価には直結していないように感じる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 本人との関わりを中心に家族の思いを伺い、事業所として、ホームのスタッフとして何が出来るか話し合っている。又、必要であれば、他事業所等を含め連携を取り合い多機能に、より柔軟に対応できるようにしている。		個々のニーズに応じられるよう、事業所のみフォーマルなサービスではなく、地域の方にも協力していただき、より多機能性を高めていけるように努める。
			(外部評価) 美術館や行きつけの理美容院、ご自宅訪問等に同行されている。利用者のご家族の入学式に、職員が付き添われたこともある。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 近くに大学がある為、行事があるときには、学生を通じたボランティアの受け入れや、日々の生活の中でも、地域の図書館等はよく利用している。また、警察や消防には利用者がもし、行方不明になった時に即対応してもらえる様に利用者の顔写真や特徴を明記した資料を渡している。		運営推進会議を通じて、もっと幅広い地域資源の活用に努めていきたい。 いきつけの喫茶店や美容院は利用者のためにスロープを設置して下さったところもある。
41		他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 他施設のケアマネや相談員、特に地域包括支援センターのケアマネとは色々な話や相談ができ、多方面のサービスを利用できる為のアドバイスや支援を受け、それをもとに必要であれば利用者個々にあったサービスを受けられる体制作りに取り組んでいる。		地域包括支援センターを中心とした、地域連絡会議の参加が、あまり出来ていない。もっと積極的に参加しより多くのサービス事業者との関わりを持ち、利用者により多くのサービスを提供できるように努めていきたい。
42		地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 日頃から、地域包括支援センターと連絡を取り合い、相談等、連携が出来ている、特に運営推進会議を通じ、ホームに直接、支援センターのケアマネが来るようになってからは、生の利用者の声や希望を聞いてもらえるようになり、よりサービスに厚みが出来てきたように感じる。		なお一層、地域包括支援センターとの連携をはかり、利用者から要望があった際には、迅速に対応できるようにする。
43	18	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 入居時に本人や家族の希望される医師や、かかりつけ医等を聞き、入居後も継続して、その医師の医療が受けられるように医師との連携等含め支援している。又、24時間連絡が取れる医療機関もあり緊急時等すぐに対応できている。		本人の状態の変化を敏感に察知し、かかりつけ医に報告・連絡・相談できるように支援している。 また、家族や本人が医療に対して疑問を感じているのであれば、インフォームドコンセントやセカンドオピニオン等の支援も積極的に行なっている。その際のかかりつけ医への配慮も十分に行い、報告や連絡等しっかり行なっている。
			(外部評価) 協力医は、ほぼ毎日のように様子を見に来られる。かかりつけ医の2週間に1度の定期健診には、職員が同行されている。		
44		認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 常に連携を取り合い、利用者の変化を敏感に感じ取り医師に相談できる体制作りが出来ている。医師もほぼ毎日ホームに往診に来てくださるため、利用者の状態が良く分かっており、利用者も気遣い無く医師に相談できている。		定期的に認知症の検査が出来る施設のある病院との連携も今後はかかっていきたい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
45		看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 医療連携体制を通じて、協力病院の看護師が毎週1回訪問していただき、毎日のバイタルチェックの結果や介護記録、利用者への口頭のチェック等で日々の健康管理に対するアドバイス等を得ている。また、必要であれば専門医等への連絡など、橋渡しの役割もしていただいている。		利用者がよく利用している病院の看護師と契約している為、利用者も安心して、自分の身体のことを話せている。また、医師への連絡等をしてくださることで、スムーズに医療を受けることが出来ている。
46		早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院時、ホームで使用していたものや馴染みの物を持参したり、スタッフがお見舞い等、頻回に行くことで利用者の不安を軽減している。スタッフは日常生活の事を病院関係者に伝え入院しても出来るだけ本人の生活ペースがかわらない様に配慮してもらえるよう努めている。		お見舞い時に病院関係者に本人の状況を伺ったり、退院後気をつけること等を聞くことで、ホームの環境を整え早期退院できるように努めている。 また、家族にも安心してもらえるように、連絡を取り合ったり場合によっては一緒にお見舞いに行ったりしている。
47	19	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 入居時や入居後も定期的に、ターミナルケアについての話を家族にする事で家族には理解を得ている、急変時や終末期の家族の混乱・不安を考慮しグループホームでの環境を整えたり、かかりつけ医との連携は普段から蜜にとっている。また、混乱時に、いくつかの選択肢も準備しておき家族が判断しやすいように取り組んでいる。		本人や家族の考えや希望を十分に話し合い、かかりつけ医にも、その事を報告し本人に関わるすべての人が方針を共有できる体制作りに取り組んでいる。 また、状況の変化に柔軟に対応できるように、日頃からスタッフにはターミナルケアに対する意識付けをし、より家族や本人に安心してもらえるように努めている。
			(外部評価) 入居時、ご本人やご家族に、重度化時、終末期の支援の方針について説明をされている。これまでに、職員に見守られて最期を迎えられた方もおられ、ご本人、ご家族の立場に立ったターミナルケアに努められた。		現在、介護度が重度の方が多くおられ、管理者は、さらに、介護技術の向上を図っていきたくておられた。
48		重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 普段から定期的にターミナルケアについて家族・スタッフに話しており、家族・スタッフ・医師が利用者第一に考えたケアを進めていけるように取り組んでいる。グループホームの環境を整え、グループホームで出来ることの幅を広げられるように努めている。		利用者の終末期をスタッフ全員が大切な時間ととらえ、利用者・家族の不安を軽減し穏やかで安らかな時間になるように支援していきたい。 また、状態の変化にスムーズに対応できるように、医師・看護師も含めた話し合いをもっと蜜とっていけるようにする。
49		住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 本人や家族の意見を聞きながら、出来る限りの支援をしていく体制作りを取っている。又、関わっていく関係者への情報交換はしっかりと行っている。		本人の意見や希望を聞きながら、今までの生活と変わらぬように、家族や本人に関わる関係者への伝達などしっかりと行なっていく。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>					
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>					
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
50	20	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>(自己評価) プライバシーの確保は徹底して行っている。入居時に家族・本人に個人情報の取り扱いについては説明し、病院受診等、必要な情報提供以外は外部に漏らすことは無い。利用者への言葉掛けや対応にも配慮している。</p>		<p>基本的に、利用者一人一人に合わせた声掛けを行っている。特に言葉掛けや感情のコントロールについては、この一年職員の目標としていた為、以前に比べると、その時の気分や雰囲気にならなれど、冷静な声掛けや対応が出来てきた。今後も職員会やカンファレンス時に話し合ったり、個別に話したりしていきたい。</p>
			<p>(外部評価)</p>		
<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>			<p>(自己評価) 自己表現が中々出来ない方も、いくつかの選択肢を出すことで、自分が決めたりする事が出来る場面もあり、色々試している。基本的に全ての場面で利用者の意見を聞くようにしている。</p>		<p>利用者の夢や希望が実現できるように、よりホームとして多機能性を高めると共に、利用者が自分で決められる喜びを感じていただけるように支援をしていく。</p>
52	21	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>(自己評価) 利用者中心の生活が出来るように、特に業務マニュアルは作っておらず、スタッフは利用者のペース・希望に応じて柔軟に対応できるようにしている。利用者個々のペースを把握しているが、知っているから先に動くのではなく、利用者の言葉や仕草を見ながら、一緒にしたり見守ったりしている。</p>		<p>利用者のペースに合わせているが、その人らしさが出されていない時があるので、気を付け、利用者の希望に添った支援をしていくように努める。</p>
			<p>(外部評価)</p>		
			<p>職員は、利用者のペースや気持ちに寄り添うことを大切にされている。昼食時、お一人だけ時間をかけて召し上がってられる方に職員は、「ゆっくりでいいですよ」と声かけされ、その方の食事がほぼ終わるのを待って、食器洗いに取りかかっていた。</p>		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 本人の希望や行きつけの理美容院に行くようにしている。洋服等も行きつけの店があるなら、そこを利用するようにしている。化粧等できる方は少ないが、希望があるときや外出時等には支援している。		地域のお店の利用もいいが、時には大街道や銀天街などにも繰り出し、ショッピングできればと利用者と目論んでいる。
54	22	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事のメニューや形態等、利用者に聞きながら支援している。食事が食べやすいように、利用者によっては皿の工夫をしたり、食器の配置等に気をつけている。食事時楽しく過ごせるように、各テーブルにスタッフがつき会話しながら食事を一緒に食べるようにしている。 (外部評価) 訪問時の昼食は、その日が誕生日の方の希望で、お赤飯と白和えがメニューに加えられ、彩りも工夫されていた。食後、下膳されている利用者がうかがえた。時には、下ごしらえや食器洗い等をされる方もおられる。		利用者はスタッフの事をよく見ており、特に朝夕の人員が少ないときには、「こりゃいかん」と手伝ってくださる場面が多い。わざとこういう場面を作るのも面白みがあるので、取り組んでいきたい。 管理者は、今後さらに、利用者が食事作り一連の流れにかかわれるよう、職員の働きかけを工夫していきたいと考えておられた。食事時の利用者の姿勢にも配慮される等、おいしい食事をさらに楽しむことができるよう、取り組みをすすめていかれてほしい。
55		本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 基本にお酒やタバコ（喫煙場所を守っていただけたら）等自由に飲んでいただいてもかまわないが、今のところ、お酒やタバコ等日常的に飲まれている方はいない、おやつはホームでもお出ししているが、それ以外の物は買い物等の時に利用者が購入し自分で管理されている。		自由に本人の好きなものを飲んだり食べたりしていただいてもかまわないが、自分で管理されている方に関しては賞味期限切れのものや季節によっては、もう食べない方がよいものなど、スタッフは気をつけて見守っている。行事の時にお酒を飲まれる方はいるが、医師の指示でアルコールがいけない方に関してはノンアルコールの物をお出ししたり、飲み過ぎないようにするなど気をつけている。
56		気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 利用者個々の排泄チェック表を基に、その日の体調や行動を見ながら声掛け誘導をしている。トイレに座るのが難しい方も、随時声掛け等行いその方にあったオムツやパット、パンツ等を使用し、排泄チェック表をもとに、その方に合わせたオムツ等の交換を行なえるように努めている。		その日の体調や尿量、便の形状等、観察しそれに合わせた食事や水分補給等工夫して行なっている。また、便秘に対するアプローチも下剤をすぐに使用するのではなく、水分や食事・おやつ等工夫して自然に排便できるように努めている。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	23	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価)		
			24時間いつでも入れるようにしている。利用者から訴えがある時には、すぐに対応している。訴えない方に関しては時間やタイミングを見計らって声掛けしている。入浴時間も余裕を持って入浴できるようにしている。		入浴できない方に関しては、清拭や足浴等を行なっている。又、入浴嫌いな方も行きつけの銭湯や温泉に行くこと入浴してくださる事が分かり、定期的にそういう所も利用している。しかし、スタッフの人員の関係上難しい時があるので、温泉ボランティアとかいがないか探している。
			(外部評価)		
			夜間に入浴される方もおられる。入浴を拒まれる方には、言葉かけを工夫されたり、銭湯や温泉を利用する場合もある。		
58		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価)		
			お昼寝をする方もいたり、昨夜の睡眠状況に応じて、適度に日中休んでいただいたりしている。就寝時間の決まりはなく、ここの生活のリズムに応じて、眠りたい時に就寝していただくようにしている。		居室で休まれる時には、室温や光の具合、物音等に気をつけ、心地よく休んでいただけるように気をつけている。夜間眠れない方に対しては、ゆっくりお話をしたり、飲み物等をお出しし、安心していただけるように支援している。眠剤等できるだけ使用しないで済むように、医師や看護師に相談したり、アドバイスを受けていたりしている。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価)		
			折り紙や新聞折り、買い物・洗濯物干し・洗濯物たたみ・編み物等、利用者それぞれが充実感、楽しさを感じていただけるよう、生活の中での役割を持ったり、趣味などある方は継続的に取り組んでいけるように支援している。一人一人の役割・楽しみごとの支援をしっかりと実践している。		家族や身近な方から、利用者の好きな事や趣味等を聞き出し、環境を整えることで、まだまだ、発揮できていない利用者の「出来ること」の可能性を引き出せるような支援に取り組んでいく。散歩や外出等、気晴らしの支援が、もう少し個別に対応できるように、人員の配置や増員を考えていきたい。
			(外部評価)		
			「文芸春秋」を毎月購読される方、編み物をされる方、折り紙作品を他の利用者の方に差し上げる方等、利用者一人ひとりが楽しい時間を送ることができるよう、支援に努めておられる。昼食後、新聞記事を話題にして、職員との話を楽しませてもらっている利用者の様子がうかがえた。訪問時、100歳を迎えられた方の誕生会が催され、花束とプレゼントを贈り、和菓子を召し上がりながら、皆さんでお祝いされていた。		
60		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価)		
			スタッフは利用者が自由にお金を使える事についての大切さを理解している、金銭管理が可能な方や家族から、お金の管理について了解が得られている方に対しては、自分でお金を使えるように支援している。また、管理が難しい方に対して、自由に使えるお金を事務所で管理し本人の希望に応じて、家族に相談の上、使用している。		トラブル防止のため、本人や家族にはお金を持つておくことで起こりうるリスクの説明を行い、もし紛失しても大きなトラブルにならないように大金を所持するのは出来るだけ避けていただけるように説明し理解していただいている。また、いくら所持されているか家族に確認していただきスタッフに伝えてもらっている。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
61	25	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) なるべく希望に沿えるように支援している。天候やスタッフの人員によって対応できないこともあるが、個別であったり少人数で外出できる機会を設けている。長距離の外出の場合は事前に利用者と一緒に予定を立て、楽しみながら計画している。その日その時の利用者の希望は迅速に対応出来るように努めている。 (外部評価) 食材や洋服等の買い物に出かけられたり、毎朝の散歩を日課とされている方もおられる。利用者、ご家族、職員合同で、大三島や道後の1泊旅行や忘年会を楽しまれている。		人員の関係上、買い物等希望があったときに、即対応できない事もあるが、必ず行ける時間を伝え約束しその日のうちに実行している。
62		普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 天候や季節を考え、事前に外出計画やスタッフが下見しておく事で、その日に合わせて人員の確保やボランティアの受け入れ等している。		計画的に行程や時間、現地の環境を把握しておく事で、利用者負担を与えず外出できている。(劇場やバラ公園、花見や墓参り等) 年に一度、一泊旅行か日帰り旅行、渡船を使っのミニクルージングや島渡り等行っている。
63		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話はいつでも希望があれば掛けられる様にしている、耳が遠く電話で話すのが難しい方に関しても、スタッフが間に入って対応することで、用件を伝えたりしている。手紙も自由に書いていただき、利用者自ら郵便局に投函しに行ったり、スタッフが依頼されたりしている。自書が難しい方に関しては代筆等の支援もしている。		電話・手紙等は利用者と家族・親しい方をつなぐ、ひとつの道具である為、今後も積極的なアプローチをしていくと共に、季節のお便りや年賀状などの支援も利用者からの声を待つのではなくスタッフの方からアプローチできるようにしていきたい。
64		家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 家族や馴染みの方が面会等に來られたときは、リビングや・自室等、利用者や面会者がリラックスして、ゆっくり過ごせる場所で過ごしていただき、お茶やお菓子等お出ししたり、利用者の様子や、または世間話等も含めスタッフが交じったり、または、そっとしておいたり、その場の空気を読んで対応している。		笑顔での挨拶や、お見送り等したり、お礼の手紙や電話等、利用者が出来るように支援している。 大きな音をたてないようにしたり、温度・光の具合にも気をつけている。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 普段の生活の中で身体拘束について話し合ったり、スタッフ同士確認しあっている。 また、職員会やカンファレンスで定期的に、身体拘束についての勉強会や話し合いを行う事で、スタッフは身体拘束をしないという意識を持ち、拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。		今後、やむなく身体拘束が必要なケースがある場合は、家族・本人・医師・職員を含め、良く話し合い、できるだけ、身体拘束を行わないケアを実践していく。今まで通り、定期的に身体拘束について話し合ったり、常日頃から、スタッフが意識することで身体拘束をしないように努める。
66	26	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 利用者の行動を制限するための施錠は行なわない。日中は常に玄関を開けている。居室や玄関の鍵を閉め利用者の行動を制限したときに、利用者が感じる気持ちや、様々な弊害を職員会やカンファレンス時、又は常日頃からスタッフには話しているので、スタッフは良く理解できている。 (外部評価) 日中は、玄関に鍵をかけず、自由に出入りできるようになっている。		今後も、鍵をかけることの意味を理解して継続すると共に、利用者の心の鍵も外していきたい。
67		利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 日頃からスタッフ同士、常に声を掛け合い、利用者の所在や様子をきちんと確認しあっている。		夜間、定時の巡視時に利用者の居室に入るときの、プライバシーに配慮する。又、居室のドアを開けっ放しにしないように気をつける。
68		注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) ハサミや針といった物品は一人一人の状態や管理能力に応じて使ってもらっている。又、使用しているときは、そばについて見守るようにしている。		注意が必要な物品を利用者が使用しているときは、怪我防止の為に、できるかぎりそばについて見守るようにする。また、薬剤や包丁などホームの物品の管理方法にも十分注意するが、一律になくすのではなくスタッフがきちんと見守っておくことで、利用者が安全に自由に使えるようにも支援していく。
69		事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 個々の状態を把握し、転倒の危険がある方については、必ずスタッフが側についておく等気をつけている。 配薬はスタッフが代行し、服用時も再度確認し服薬の見守りや介助を行なっている。各事故に対するマニュアルを作成しており、定期的に話し合いを持つことで、意識を高め事故防止に努めている。		防火の意識を高める為に、年に2度、消防機器の点検及び避難訓練・消化訓練を行なっている。行方不明時には迅速に発見できる為に、地域の消防署や警察に利用者の顔写真や特徴を明記した書類を渡し不明になった時等の協力を依頼している。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 急変時には「急変時の対応マニュアル」に沿って対応している。また、スタッフには利用者の体調の変化を見逃さないように、常日頃からバイタルサインのチェック等気を使い行なう様に指導し、急変した場合や事故発生時に的確に対応できるように努めている。24時間いつでも対応してくれる病院と連携が出来ている。		以前、消防署に依頼し、救急講習をしていただいたが、スタッフの入れ替わりもあり、応急手当や初期対応の訓練が不十分なスタッフもいるため、早急に講習等行なうなどして、充実をはかっていきたい。
71	27	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 消防署員や防火機器会社職員の立会いのもと、避難訓練や消火訓練・防火設備の点検等は年に2度行なっている。その際、地域の区長さんや民生委員、近所の方にも参加していただき、ホームの間取りや避難方法・避難経路等確認していただき理解やアドバイス等頂いた。		夜間想定避難訓練では、2名のスタッフでは避難した利用者の見守りをしないといけないなど、中々全員の救助が難しく、近隣の方の協力が必要だと感じた。その為に、近所の方には、避難場所での利用者の見守り等の役割をして頂けたら助かると、お願いをすると、快く了解を得れた。また、災害時に利用者を保護して下さる近所の方宅が2件確保できた。
			(外部評価) 毎年、3月と10月に、地域の方にも参加いただき、避難訓練や防火設備の点検を実施されている。避難場所での利用者の見守り等、ご近所の方の協力も得られている。		管理者は、今後、地区の消防団との連携を推進していきたいと話しておられた。
72		リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 利用者・家族には入居時や日頃から、様々な場面で起こりうるリスクについて話し合い、説明・同意を得ている。		リスクがあるから制限するのではなく、色々な方向から考え、本人・家族の希望を聞きながら、安全に実現するにはどのようにすればよいか考え話し合っている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎日のバイタル測定をはじめ、日々の生活の中でも、利用者の表情や顔色・言動等、注意して観察すると共に、利用者に直接触れることで、利用者の状態の変化をいち早く察知するように努めている、それをきちんと記録に残し申し送っていくことで、スタッフはその情報を共有し、必要な対応(病院受診や初期処置等)行なっている。		引き続き、バイタル測定や口頭での健康チェックを毎日行い、日々の体調の観察、体調が変化した時の早期発見に努めたい。又、それを、きちんと記録に残し、スタッフが確実に共有できるシステム作りに取り組みきたい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
74		服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋に目を通す機会を作り、薬の変更があった場合は、連絡簿等に記載し、スタッフ皆が薬や効能を把握する事ができている。 薬局と提携しているため、薬の効能や副作用、飲みかた、注意事項等、薬剤師からの指導を受けられる。		服薬開始からの利用者の状態の変化は、ちくいち医師に報告し、薬の飲みすぎや、利用者に適した薬の使用を医師や薬剤師と相談しながら行っている。
75		便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 排泄チェック表を作り、個々の利用者の排泄の状況を把握し、便秘に対するアプローチも飲食物(ヨーグルトやオリゴ糖・海藻類)に工夫し、緩下剤等できるだけ使用しないで済む方法を医師や看護師と相談している。		出来る限り、自然排便を促せていける様に、水分コントロールや飲食物の工夫をしていく。
76		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 口腔ケアに対する研修ができていない為、スタッフの口腔ケアに対する意識が低いように感じる、利用者も毎食後口腔ケアが出来ている人は限られており、自立できている方については、任せっきりである。その他の方は一日二回麻と就寝前に行なっている。		協力歯科医に口腔ケアに対する講習を依頼し、まずは利用者、スタッフ一緒に口腔ケアに対する意識・知識付けをしていく。スタッフは口腔ケアの重要性をよく知り、利用者アプローチしていく様に努める。また、定期的に歯科医の往診を受け、口腔内の状態を確認していただけるように努める。
77	28	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 管理栄養士がメニューを作成し、利用者一人一人の適量を把握し、体調や本人の希望に合わせて量を加減している。 水分量に関しては、食事時やおやつ時以外にも、随時摂取できるように、手の届くところに急須や麦茶入れを置いており、訴えがない方に対しても、声掛け等水分摂取のアプローチをしている。		介護記録に詳しい水分摂取量までは記載していないが、大まかな摂取量(コップ1杯とか)を記載している。より多くの水分を摂取していただける為に、飲み物の工夫(コーヒーやジュース類)をしている。
			(外部評価) 管理栄養士が献立を作成されている。食の進まない方には、ヨーグルト等の食べやすいもので補食されている。水分は1200ccを目安にし、折を捉えて、コーヒーや紅茶、ジュースや牛乳を飲むようにされている。訪問時の昼食後は、皆さんでコーヒーを飲んでおられた。		
78		感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	(自己評価) 感染症予防の対応マニュアルを作成しており、スタッフに周知できている。利用者への対応についても、必要に応じて職員会で伝え、手洗い、ゴム手袋の使用、手指消毒等の励行など基本的なことも随時伝えるようにしている。		分からないことは、担当医や看護師に聞くなどして、予防や、ホーム内感染等が起こらないように注意している。 再度、勉強会を開き、スタッフ全員が再確認できるようにする。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
79		<p>食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>(自己評価) 管理栄養士の指導のもと、シンクや台所周り、冷蔵庫の中や食器棚等の消毒・掃除は毎日行っている。食材に関しても、地域の八百屋や魚屋・肉屋から新鮮な物を配送していただく事で、安全な食を提供できている。</p>		<p>食材の管理等は、担当の管理栄養士が行なっているが、食材は利用者の口に直接入るものなので、スタッフ一人一人が意識して衛生管理に努める。</p>
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
80		<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 季節に応じて、玄関周りの装飾を変えたり、玄関前にベンチを設置し皆が憩える場を作った。行事があるときなどはホームの近隣の方に案内を出したり、ポスターを作るなどして地域の方も気軽に参加しやすいように努めている。</p>		<p>小学校や中学校の職場体験授業を通じ、近所の子供の訪問が多くなった、利用者も喜んでいる。又、玄関前に利用者やスタッフがいたり近所の方が声を掛けてくださったりする。ホームのペット(犬・猫)に会いに来て下さる方も増えた。</p>
81	29	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 季節にあった壁紙や利用者が作った物を壁に展示するなどしている。テレビの音やスタッフの声の大きさにも気を付けている。照明が直接照明なので改善したい。</p> <p>(外部評価) 共用空間には、観葉植物や季節の花、利用者が手作りされた折り紙の作品が飾られていた。壁には、行事の折等の利用者の写真が貼られていた。窓からは、高縄山が眺められ、犬や猫も飼っておられた。</p>		<p>まずは利用者が一番心地よく生活できる為に、利用者との相談しながら、直していきたい。</p>
82		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 共用空間が狭くりビング兼、食堂・台所のようになっている為、共用空間の中で一人になれる場はないが、花や壁紙等飾りつけ、椅子やソファ等色々な場所に設置し居心地良く好きなどころで過ごせるように工夫している。</p>		<p>利用者が居室にこもらず、自然にリビングに来たくなる様な環境作りに取り組む。</p>

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
83	30	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)			
			認知症高齢者の環境の変化に伴う様々な弊害を説明し、利用者の不安や混乱の軽減の為に、使い慣れた物や、馴染みの物を自由に持ってきて頂きたい事を伝え、理解・協力をして頂いている。入居後も、利用者が必要と感じているなら、家族に伝えたり、自宅に取りに帰ったりして、利用者が自分の空間を作れるように支援している。			家族が使い慣れたものを持ってきてくださったり、時には利用者が自宅に帰り、自分の目で見てセレクトしたりしている。 自分で、居室の整理や模様替え等できない方に対しては、一緒に相談しながら協力して、自分の部屋作りの支援をしている。
			(外部評価)			
			居室には、タンスやソファ、鏡台等を置かれていた。思い出の写真やご家族の卒業証書、お気に入りの歌手のポスターや模型飛行機等を飾っておられる居室もうかがえた。			
84		換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価)			
			一日数回は窓を開け、空気入れかえを行っている。また、換気扇や戸をすかしておく事で、空気の流れ道を作り、においがこもらないように気をつけている。 エアコンを使用するときには乾燥に注意し加湿器や洗濯物を干すなどして、湿度管理にも気をつけている。			エアコンを使用するときの温度設定・湿度に気をつける。 オムツ交換後やトイレ後には、換気扇を回したり、戸を開けることで、においがこもらないように気をつけている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり						
85		身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)			
			利用者一人一人の状態を考え、必要なところに手すりや、もたれる事が出来る物、椅子等を置いている。 ベットの高さも一人一人に合わせている。			手すりや、もたれる物が設置できないところを、いかに利用者が安全に利用できるか考えていかなければならない。どこにでも手すり等を設置するのではなく、利用者の身体状況や運動能力を把握し、利用者や相談しながら必要なところに設置するようにする。
86		わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価)			
			各居室前には本人の表札を貼っている、又、本人の写真や似顔絵を貼ったり、折り紙のぼんぼり(利用者手作りの)をつけたりして、目印にしている。トイレも分かるように、目印をつけている。			しっかりと環境を整えて、利用者の「出来る」能力をスタッフが把握しておくことで、無駄にスタッフが手出ししたりしないように気をつけている。分からなくなっているときも、さりげなく声を掛けたり演じることで利用者が「自分ひとりで出来た」と思えるように支援している。
87		建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価)			
			リビングからベランダに出るところや玄関の出口に段差があり、駐車場から外に出る所は急な坂がある為、車椅子の方が一人で自由に外に出るのが難しい。 ホームの庭や玄関前には花や野菜を育てても楽しめる。			玄関ポーチに椅子やテーブルを設置し、皆で憩える場所を作っている。季節によっては、よしずを設置し日陰を作っている。 利用者の意識が室内ばかりでなく、外に向いていけるように、利用者と協同して花壇作りや野菜作りなど、もっとしていきたい。

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ①ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	日々の生活の中で、常に利用者の意見や思いを聞くようにし、全ての場面で選択してもらえる声掛けを行なっている。利用者の思いや願いを優先しスタッフは行動するようにしている。一日のスケジュールは利用者が決め、それにそってスタッフが支援している。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ①毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	食事時やおやつ時などの、利用者の楽しみの時間はスタッフも一緒に楽しむようにしている。利用者と一緒に行動するようにしている為、自然にゆっくりとした時間になる。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	訴えの出来ない方に関しては、家族や身近な方からの情報をもとに、出来る限り、その方の思いに近づけるように考えながら支援しているが、その様な方、皆が自分のペースで生活できているか考えると、まだまだ至らない部分が多いと思う。自立されている方に関しては自分のペースで好きな事をして過ごされている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	スタッフは利用者の出来ること、出来ない事をしっかりと把握し、必要以上に手を出さないように気をつけ、環境面や声掛けに工夫し利用者が自分で出来たと思える支援に取り組んでいる。スタッフは介護者・要介護者という意識を持たずに、お互いが「支え支えられる存在」であるという意識で仕事に取り組むことで、利用者によりよい関係を保っている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	毎朝自由に近所周りを散歩される方もいる。その時の体調や気分、天候によって外出されたり、訴えがあったときには、できるだけ早急にその気持ちを満たせられるように支援している。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	本人の、かかりつけ医の医療を受けられると共に、定期的な受診や往診、看護師の健康管理などを受けることで、利用者・家族には安心を得ている。
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者が選択できる声掛けを行なったり、自ら訴えがあった時等には早急に柔軟にその気持ちを満たせられる様に努めている。とにかく利用者の思いを優先するケアを心がけている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (自己評価) ①ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	家族会の開催したり、日々の生活の中でも個別の担当者や対応したスタッフが、面会時、又は定期的に家族にしたりレターを送り、近況報告をしている。その時に、家族の思いや希望・悩みを聞き相談に応じている。利用者の健康管理や病院受診時には随時家族に報告している。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない	小学校や中学校の職場体験授業を積極的に受け入れ、そこで知り合った近所の子供の来訪が多い。地域の方も飼っている犬に会いに来たり、散歩等に行って下さる。また、近所の畑の方が残った野菜等持ってきてくださったり、ホームの畑の世話もして下さる。

項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	①大いに増えている (自己 2 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	運営推進会議を通じ、地域の自治会に加入する事で、地域の行事や公民館の掃除・ゴミ当番等に参加し、今まで関わりが薄かった地域の方と交流が出来るようになった。推進会議にも少しずつではあるが、地域の方の参加が増えてきた。
98	①ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	スタッフの思いや悩みを聞く場が、勤務時間内やアフターにもう少し取れるようにして、スタッフ一同が自分の力を十分に発揮できる職場作りをしていきたい。
99	①ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	帰宅願望が強い利用者の思いを少しでも実現できるように取り組んでいる。年齢層の幅が広く、各年代の利用者の感覚が違うため、関わりが難しいが、利用者の声を聞き対応している。
100	①ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	まだ、家族は「見てもらっているから」という意識が強いように感じる。職員の方から積極的に関わりを持ち、家族の本当の気持ちを汲み取って行かなければならない。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

- ・個人の意見を聞いて、個別で対応できるように心がけている。
- ・家庭的な環境を整えている。
- ・食事に関しては、管理栄養士が、季節を感じられる、メニュー作りをし、利用者のリクエストも常に取り入れるようにしている。
- ・年に一度、利用者・家族一緒に一泊旅行か日帰り旅行、忘年会を行なっている。
- ・地域の行事に積極的に参加し、地域の方との交流が出来てきた。